

<年頭所感>

## 令和の時代に相応しい業界団体を目指して

全国小売酒販組合中央会  
会 長 坂田 辰久

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様、関係各位の皆様には、日頃より全国小売酒販組合中央会（以下、「中央会」）の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は、平成から令和への御代替わりが行われる節目の年となりました。それぞれが平成を振り返るとともに、新たな時代への希望を胸にされたことと思います。酒類小売業界にとって平成は、規制緩和に代表される激動の時代でした。そのような状況にあっても、創意工夫や、長年にわたる地域での貢献を真摯に続けてこられたことによって必要とされ、地域の灯りをともしている全国の組合員の皆様へ、希望や明るい話題をお届けする組織であり続けたいと感じております。

本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。昨今の訪日外国人観光客の増加に伴い、オリンピックでも 4000 万人に近い観光客が日本を訪れることが予想されています。大会運営費などの直接効果が 2 兆円程度に対し、インバウンド消費や投資拡大効果などの間接効果は 28 兆円程度と試算されています。訪日観光客の 6 割程度はリピーターであり、比較的長い期間滞在し、東京だけに留まらず各地を訪れることが多いそうです。私たち街の酒屋は、酒類の知識や地域の魅力を伝える担い手になるのではないのでしょうか。

さて、令和の時代に相応しい業界団体を目指すためには、組織率の低下に歯止めをかけ、その向上を図らなければならないと感じております。昨年より、日本フランチャイズチェーン協会、全国酒類業務用卸連合会を始めとする各種団体との協議を持つなど、会勢拡大に向けた取り組みを本格的に進めています。酒類は 20 歳未満の飲酒や飲酒運転、アルコール関連問題から、社会的規制の流れは避けて通れません。また様々な分野に AI が浸透し、小売業においてもそれは例外ではありません。例えばコンビニエンスストア各社は、近年、無人化レジをはじめ店舗オペレーションの省人化・省力化を加速させています。年齢確認が必要な酒類やたばこは常に議論になりますが、酒類については、中央会がイニシアティブを取っていかねばなりません。また、地域に根差す社会貢献活動を今後も行っていくためにも、各級における丁寧な検討を重ねながら、組織率を高めていくことを目指します。

また、酒類の公正な取引に関する基準（以下、「基準」）の見直しに向けた協議を引き続き進めます。平成 29 年 6 月に施行された基準は、2 事務年度で合計 12 件の指示、32 件の嚴重指導がなされ、局所的な改善も見られました。しかし、全体としては施行後に大きく上がった店頭価格等が下落を続けており、問題のポイントも明らかになってきました。問題点であるリベートの抜本的見直しや、費用の配賦方法の明確化を図り、基準並びに指針の厳格化が喫緊の課題と認識しています。基準は、概ね 5 年ごとに見直しが行われることになっていますが、現状を鑑み、見直し時期の前倒しが必要だと切実に感じております。その折衝交渉にあたっては、昨年の参議院議員選挙において、我々と石油業界の代表として立候補をし残念な結果となった水口尚人君に対し、中央会役員会として各種活動に必要不可欠であることから早期復帰の要請をし、現在、彼が事務局長としてその任を担っております。

各ブロックの代表である中央会役員、活動を担う事務局が一丸となり、加入勧奨活動、基準の早期見直しへ向けて取り組んでいく所存です。

本年 6 月には役員改選を迎えます。現執行部として、次の執行部へしっかりとバトンを繋ぎ、活動を一時も絶やさぬよう邁進する覚悟です。一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。